

得意科目は、「予習」でつくろう

—新学年で得意科目を一つでも多くつくるには—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：もうすぐ新学年です。新学年で得意科目を一つでも多くつくるにはどうしたらよいですか。

A：(林明夫：以下省略)

(1)とにかく、学校から新学年用の教科書を頂いたら、これぞという科目は「予習」を徹底的に行うことです。学校の授業の妨げになるから、学校で授業が始まるまで教科書を予習してはいけないという考えもあるかも知れませんが、私はそうは思いません。どのような内容をこれから1年間で学習するのかを予め知った上で学ぶことは、とても役に立つからです。

(2)学校から新学年用の教科書や副教材の配付を受けた瞬間から、誰に遠慮することなく、最後のページまでどんどん勉強してしまうことをお勧めします。

(3)国語や英語、社会は、大きな声を出して教科書の最初から最後まで読んでしましましょう。数学は、ノートを1冊用意して、教科書の説明をよく読みながら「例題」や「やさしい問題」だけでも全部やってみましょう。理科は、副教材や参考書を横に置き、ゆっくりゆっくりと教科書に書いてあることを考えてみましょう。

音楽は、もし皆さんがピアノなどの楽器が演奏できるなら、教科書に出てくる曲の中で自分で演奏できそうなものをピアノなどで弾いてみましょう。歌詞がついているものがあれば、歌ってみましょう。

(4)技術・家庭や美術、保健体育こそ教科書を1ページ目から最後までじっくり読むと、読めば読むほど自分の知らないことが多いことに気がきます。そして、その一つ一つが毎日の生活に役立つことが少しずつジワーとわかってきます。毎日の生活は、人生は、何と味わい深いものだということが、教科書の1ページ1ページから実感できるのが技術・家庭、音楽、美術です。大いに予習をしましょう。

Q：どのように「予習」をしたらよいのですか。

A：「音読」あるのみです。予習をするのに最も効果的なのは「音読」、つまり「大きな声を出して読む」ことです。これは余り知られていませんが、学校で成績のよい人、入試で偏差値の高い人(偏差値70以上の人)、司法試験など難しい国家試験に合格している人の多くは、昔も今も「音読」つまり「大きな声を出して読む」という勉強方法を身に付けています。

もし、「新学年こそよい成績を取ろう」と思うのでしたら、自分の好きな科目、たとえ一科目だけでもよいので、学校から教科書を頂いたその瞬間からそれを大きな声で読む「音読」を試みることを、私は心からお勧めします。

そして、成績のよい人のように、「音読」を自分の勉強方法として身に付けることを、心からお勧めします。

Q : 「音読」の他に、お勧めの「予習」の仕方がありますか。

A : (1)気に入った科目だけでもよいですから、「予習ノート」を作り、そこに「音読」していてよく意味のわからなかった語句とその「意味」を、辞書などで調べてメモしておくことをお勧めします。読み方が難しければ、仮名(かな)をふっておく。英語は「発音記号」を書いておくこと。

(2)英語は、CD を買い、初めにお手本を聴いてから、アクセントに気をつけてゆっくり発音、つまり「音読」してみる。これぞと思う科目は、「書き取り練習」も。「音読練習」が十分終わったところだけでも、書き取り練習まで済ませてしまうと、その科目の成績や偏差値は飛躍的に向上します。

Q : 教科書の予習は、いつ頃までに終わらせればよいのですか。

A : 現代の教科書は、数十年前と比べ随分薄く、また、内容もかなり易くなっていますので、一人でどんどん予習できます。ゴールデンウィークが終わるくらいまでを一つの目安にするとよいのではないかと、私は思います。好きな科目だけでもよいですから、チャレンジしてみてくださいね。

Q : 予習をしてよくわからないところは、どうしたらよいのですか。

A : とてもよい質問です。印をつけておき、授業の日までに自分で調べ、よく考えること。よくわからないことを明確にして真剣勝負で授業に臨むことが、最もよい授業の受け方だと私は考えます。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : 県立高校入試を前にした皆さんに一言。

(1)皆さんは、この1年間本当によく勉強しました。立派です。頑張った自分自身を、ぜひほめてあげてください。そして、全力をあげて県立高校入試に臨んでください。

(2)ただし、問題は入試終了後です。高校には勉強をするために進学するのですから、入学が決定したら、即高校での勉強をスタートさせてください。「予習」が最も効果を発揮するのは、「高校」や「大学」の勉強です。高校の勉強は、進度が速く、どんどん進みます。どんどん予習をしていかないと、「アッ」という間に「授業」にすらついていけなくなります。

(3)もちろん、「復習」つまり「授業」でうんなるほど「理解」したことの「定着」も大切です。「定着」のための「音読練習」、「書き取り練習」、「計算練習」も欠かせません。「学習の3段階理論」が最も役に立つのは、高校や大学、さらに言えば社会に出てからの勉強と言えます。

(4)どうか、教科書を手にした瞬間から予習をスタートすること、つまり「音読」を実行して、高校でよい成績を取って下さいね。

お体を大切に。